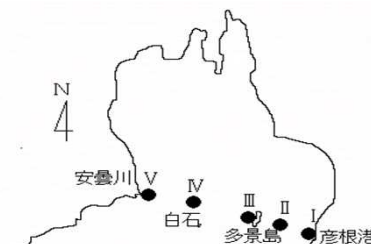


# 琵琶湖定点定期観測結果速報(令和5年7月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和5年7月10日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点  
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町  
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

## 調査結果

平均値 … 5地点の平均値

平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

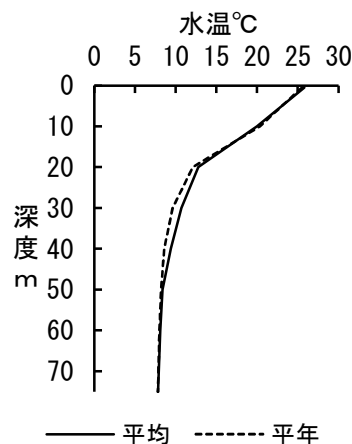
DO(溶存酸素濃度)は2013年～2022年(平成25年～令和4年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 7月平均値 7.0m 平年値 5.1m

## 2. 湖水温 (°C)

深度 (m)	7月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	25.8	25.5	+0.3
10	20.0	20.3	-0.3
20	12.8	12.1	+0.7
30	10.7	9.6	+1.1
40	9.4	8.6	+0.8
50	8.4	8.2	+0.2
60	8.1	8.0	+0.1
75※	7.8	7.8	+0.0

※7月平均値は74mの値



## 3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
6月下旬	22.8	22.3	+0.5
7月上旬	25.3	23.9	+1.4
7月中旬	27.1	25.2	+1.9

#### 4. プランクトン沈殿量 (ml/m<sup>3</sup>)

水層 (m)	7月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	9.2	14.7	-5.5
10~20	13.1	5.4	+7.7
20~40	2.4	1.9	+0.5
40~75	0.6	0.6	+0.0

(プランクトンネットNXX14使用)

#### 5. 表層のプランクトン優占種

○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンは、細胞数で見ると地点1で*Uroglena americana* (ウログレナ:黄色鞭毛藻)、地点2で*Micrasterias hardyi* (ミクラステリアス:緑藻)、地点3~5で*Aulacoseira granulata* (アウラコセイラ:珪藻)が最も多く認められた。量的に見ると全ての地点で大型の*Micrasterias hardyi*が最も多く認められた。

動物プランクトンは全ての地点で*Eodiaptomus japonicus* (ヤマトヒゲナガケンミジンコ:カイアシ類)のものと思われるノープリウス期とコペポデイド期の幼生が個体数で多く認められたほか、*Daphnia galeata* (カブトミジンコ:枝角類)も多く認められた。地点5では*Epistilys sp.* (エピスティリス:繊毛虫)が個体数では最も多く認められた。



*Uroglena americana*



*Micrasterias hardyi*



*Aulacoseira granulata*



ノープリウス期幼生



コペポデイド期幼生



*Daphnia galeata*



*Epistilys sp.*

#### 6. DO (溶存酸素濃度: mg/L) 多項目水質計による測定値。ただし平年値(参考値)はウインクラー法による測定値。

深度 (m)	7月平均値		平年値(参考値)		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	8.6	105.7	9.0	112.6	-0.4	(-6.9)
10	10.5	113.4	9.3	107.6	1.2	(+5.8)
20	9.1	85.5	8.7	83.6	0.4	(+1.9)
30	9.4	84.7	9.2	84.0	0.2	(+0.7)
75※	7.5	63.0	6.7	58.1	0.8	(+4.9)

※7月平均値は74mの値